

会 議 議 事 録

1 会議名	第5回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会
2 開催日時	令和7年3月11日（火曜日）午後5時～午後6時30分
3 開催場所	水道局 3階会議室
4 出席者名	（有識者）鯉江座長、長谷川副座長、大竹委員、田中委員、 並木委員、平賀委員 （事務局）植木局長ほか関係職員
5 欠席者名	西片委員
6 議題	1 開会 2 第4回懇話会でいただいた意見の概要（報告） 3 議事 （1）課題に対する取組について（見通しと対策） 収益減少とコスト上昇による将来的な資金不足への対応 ・水道事業の持続に必要な資金の見通し ・考えられる対策 （2）懇話会の振り返り 4 その他 5 閉会
7 会議資料	別添のとおり
8 議事概要	別添のとおり

第5回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会

議事概要

- ・はじめに、事務局から、第4回懇話会でいただいた意見の概要について報告があった。
- ・次に、長岡市水道事業の課題、
 - (1) 収益減少とコスト上昇による将来的な資金不足への対応
 - ・水道事業の持続に必要な資金の見通し
 - ・考えられる対策について、事務局から説明があり、このことに対して議論が行われた。

指摘・意見等は以下のとおり

<「(1) 収益減少とコスト上昇による将来的な資金不足への対応」>

【委員】

- ・加入金は、高度経済成長期における水源の確保や施設の拡充のためにかかった経費の一部を、新規加入者から負担いただく制度で、全国の8割で導入している。現状、新規開発や過去の開発時に借り入れた企業債の償還が終わるケースが見受けられることから、日本水道協会では、加入金の徴収対象は新規の水源開発など特定の事業に限り、それ以外は水道料金で回収していく方向での制度見直しを考えている。長岡市についても、今後は同様の方向で進めていっていただきたいが、現在の制度がおかしいということではない。実際に収入が減少するので、見直しにあたっては将来を見据えて、説明責任を果たしたうえで考えていただきたい。
- ・本編資料8頁に「導入初期はA Iの学習が追いつかず、診断精度が上がらないことが想定されるため、漏水等の発生頻度が高まるリスクがある」とあるが、診断精度が上がらないことが漏水等の発生頻度が高まるリスクになる理由を教えてください。

【事務局】

- ・ここでいうA Iは劣化度診断のこと。診断の精度が低いと、あと20年使用できるといっているが、実際には10年で漏水が発生することがありうる、という意味でこのような表現をさせていただいた。

【委員】

- ・思っていたよりも危機的で、こんなにすぐ資金繰りが悪くなるということに驚いている。今までの事業費削減の取組について説明があったが、今後の更なる経営努力によって、実際どれだけのコスト削減が可能になるのか。試算があれば示してほしい。
- ・60億円の収支不足は、年44億円の削減前の事業費で試算したものか。

【事務局】

- ・資料集5頁の左側のグラフが目標耐用年数での更新需要で、年44億円程度必要。A Iを活用するなど使える管をギリギリまで使い、適切なタイミングでの更新を見込むことで、右側のグラフのとおり年38億円程度まで削減することを見込んでいる。
- ・試算は、削減後の年38億円の事業費で行った。

【委員】

- ・更なる対策とあるが、既に削減に取り組んだ結果にしか見えない。これ以上の取組を行う余地があるのか。
- ・説明があった財政状況について、市民はどれくらい把握しているのか。

【事務局】

- ・業務を切り分けて委託化したり、金融機関に支払う手数料を減らすために名寄せして支払ったりするなどの積み重ねで、今後も経費削減や合理化を図っていきたい。ただ、水道事業は固定費が大半であるため、効果が限定的になってしまう側面がある。
- ・懇話会の資料はホームページで公開している。分かりやすいところと言うと、本編資料の7頁の令和8～12年の5年間の収支不足がおおよそ60億円といった情報についても、本懇話会の後に公表されることになる。
- ・5年間の不足額60億円というのは、かなりリアルな数字だと思っている。これを50億円、40億円に圧縮していくというのは、抜本的な見直しをしない限りはかなり難しいと考えている。

【委員】

- ・収支不足が60億円というのは、経営努力をしたとしても末期の症状だと思っている。借り入れで資金を得ても返さなければならず、根本的には収益を確保する以外の方法はない。この辺りは、市民の負担になるのが今の流れだと思う。
- ・水道事業は全国的にも経営が厳しい状況であり、新潟県内でも、既に値上げをしたところや、今後値上げを行うところもある。今の段階では、経営努力で何とかするというのはもう難しいように感じるので、市民にどのように説明し、理解してもらおうのか考えていただきたい。
- ・何でも値上がりをしている中で水道も、となると厳しい会社もあると思う。値上げしてほしくないという気持ちもあるが、全国的に水道管の事故が発生している状況を踏まえると、今整備しなかったことで将来の人たちにツケを回すことになるのはもっと良くないと思う。
- ・受益者負担ということで水道料金の見直しは仕方がないのかなと思うが、引き続き経営努力を続けてもらうとともに、市民に丁寧に説明し、理解していただくのがいいと思う。
- ・将来的に水道料金を見直す際、いきなり大きく上げるのではなく、段階的に上げるなどバランスを取りながら行っていただきたい。また、あらゆるメディアを使い、しっかりと周知を行っていただきたい。

- ・周知にあたっては、水道料金の値上げという事実だけでは不満が出ることも考えられるので、これまで行ってきた企業努力についても並行して伝えていってほしい。
- ・収支不足 60 億円のうち、料金の減収と費用の増加の影響を除いた 33～34 億円程度が資産維持費となるが、日本水道協会の算定要領では未償却資産の 3 %を標準としており、その算出方法ではおそらくこの 3 倍程度になるものと思われる。今回の試算結果では、採用管種の見直しなど企業努力を行ったうえでかなり計画的に抑えていると言えるのではないかと。ただ、本来は維持管理の時代に資産維持費を貯めておかなければならなかったもので、全国的にそれをせずに住民の料金負担を減らそうとしてきたので、収支不足が大きくなる傾向についてはやむを得ないと思うが、今後料金改定を行うのであれば、市民にきちっと理解していただいたうえで、応分の負担をいただくという説明がとにかく重要となる。
- ・現在、経営努力をしてきた中でもかなり危機的状況であり、使用料を何とかしなければならぬ状況に来ているということ、市民に理解していただく必要がある。周知方法について、ただホームページに載せるだけでは見てもらえないため、嫌でも目に入る状況にしなければならない。そこで、次回はマスコミに報道していただき、普段興味を持たない方も目に入る状況にしていかなければいけないのではないかと。

【事務局】

- ・市民や企業の方に十分理解を得ることが非常に重要であり、この懇話会で検討してきたことや、いただいたご意見など、幅広く様々なメディアで、あらゆる機会を使って発信していこうと考えている。
 - ・世間一般での水道に関する意識というのは、「蛇口をひねれば出てくるのが当たり前」ということ以上のことはないと思う。ただ、人口減少を踏まえた場合に、今後の水道は非常に危うい状況にあるという見通しがある中でも、生活と経済の安全保障・生活保障という意味合いからも水道を途絶えさせることはできず、これを持続していくための水道事業のあり方について、皆様からの意見をもとに水道局で計画していこうというのが懇話会設置の趣旨。ただ今、これまでの企業努力、現在の状況、これからの見通しを市民に分かりやすく説明してほしいという御意見を頂戴した。このことをしっかりと心に留めながら、今後の広報活動に努めていきたい。
- ・続いて、
- (2) 懇話会の振り返り
- について、事務局から説明があり、このことに対して議論が行われた。

【委員】

- ・水道メーター検針時の「水道料金のお知らせ」と一緒にチラシなどをポスティングすれば、確実に全世帯に広報が行き届くのではないかと。
- ・また、これまでの懇話会の中で何度も「蛇口をひねれば水が出てくるのが当たり前」という言葉を聞いて、すごく心に残っている。当たり前だと思っているものが、実は当たり前ではないという意味で、この言葉をキャッチコピーとして広報活動に使って

いけば、市民の心にも残るのではないか。

【事務局】

- ・以前職員に対して、水が出るのが特別なことではなく当たり前だと思われているということは、ある意味水道局の職員にとって誇りだよね、という話をしたことがある。
- ・ただ、このことが保たれているということの背景がわからないと水道の価値判断ができない。例えば、水道のシステムというのは、通常家庭では1日当たり1 t くらいの水を家までデリバリーしている状態。一方で、スーパーで購入した1 tの水を毎日家まで持ち込むというサービスを、果たして1月5,000円くらいでやってくれるところがあるだろうかと考えたときに、自分としても水道の価値を実感できたところである。
- ・このような分かりやすい例も挙げて市民に伝えていきたい。また、ポスティングの手段についても考えたい。

【委員】

- ・市民には水道料金が高いと感じているが、全国や県内他団体と比べた時にどれくらいの順位なのかについては分からないという方が多いと聞いている。料金を見直すとしても、県内での水道料金の順位が分かれば納得いただける部分もあるのではないか。
- ・水道事業が継続できなくなると、そこには住めなくなるということもあるため、危機感も大事だが、水道局としての企業努力をしているということをPRしていただくのがいいのではないか。
- ・本編資料11頁は書き方が優しい。様々な経営努力をしたうえでなお60億円の収支不足が生じる見通しであることが伝わりにくいため、もう少し危機感を強めたような形で書いても良かったのではないか。
- ・経営努力をしても60億円赤字になる、今後水の供給が…なんて言うと、どうなっているのだという市民もいると思うが、そこまでやっても今後経営は厳しくなっていくということをしっかり伝えていくことが大事だと思う。
- ・本編資料10頁の内容は定性的すぎる。本来は事業計画を作成し、何をいつやるのか、また、それにはいくら経費がかかる、ということを示さなければならないため、会のまとめ方としては、「対策を着実に実行していくことが求められる」ということではなく、「記載の内容をもとに事業計画をまず作成いただきたい」というのが良いのではないか。
- ・今回の資料では「見通し」となっているが、今後市民に負担を求めるのであれば必要な経費を料金でいただくことになるため、きちんとした精査が必要。そういった意味では、まず、もらえる国庫補助金はもらっていく、あるいは一般会計が負担すべきものは一般会計に負担していただいたうえで、それでもなおこれだけの経費が必要なので料金で、ということを事業計画や財政計画できちんと示す必要があるというところまで、意見書に書き込んだ方がいいのではないか。
- ・本編資料11頁では、「資金不足への対応」の項目に住民の理解を混ぜているが、このことは重要なことなので、別に項目を立てて記載した方がこれまで議論してきたことが伝わるのではないか。

【事務局】

- ・令和7年度に行う経営戦略の見直しの検討の中で、改めて施設・管路の更新計画を整理し、明らかにしていくとともに、資金についても、事業の計画に必要な規模を改めて精査したうえで、事業計画と整合した財政計画を作成し、市民に説明していきたい。
- ・委員の皆様からいただいたご意見のとおり、住民や企業、いわゆる利用者の理解が非常に大切だということを心に留め、意見書のほうにも記載していきたい。

【委員】

- ・水道は、安全安心と安定供給が非常に大事なので、何をおいてもきちっとしなければならない。そのうえで、財政状況が厳しいので、今後も経営努力を続けていくが市民の方々にも負担をお願いすることになる、という流れの中で個別に細かく説明していくのが良いのではないか。その際には、常に、市民にとって分かりやすくという視点を持っておいていただきたい。
 - ・市政だよりで、まず経営が厳しいということを早く伝えた方がいいのではないか。例えば、令和7年度当初予算の内容を掲載する際に併せて、水道事業の経営が厳しいということや、経営努力や工夫の内容を紹介したうえで、安全安心を提供し続けるために頑張るので、必要な負担をお願いしたい、といったことをアナウンスしてはどうか。
 - ・水道事業だけでなく、長岡市全体としてどのようにしていくのかということを中心に頭の中に入れておいていただきたい。
- ・最後に、次回はこれまでいただいた意見を取りまとめた意見書の提出を予定していること、また、報道公開を予定していることが確認された。